

Asian Diversity No.20 by ASNET 「日本・アジア学概論」

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)では、大学院生向け研究科横断型教育プログラム「日本・アジア学」を開講しています。この学際的教育を学部生向けにも行ってみよう、という目的で、2012年度夏学期総合科目(国際・地域一般)「日本・アジア学概論:国際社会で活躍する基盤を身に付ける」が2012年4月9日に開講しました。昨年度に引き続き、2回目の開講です。

講義の目的は、大学に入学したばかりの若い学生達に、アジアに存在する様々な問題—工業化による環境汚染、国際公共事業をめぐる争議、交通渋滞と都市開発、資源開発と環境保全—について、自ら主体となって考える機会を提供することにあります。講義はASNETの参加する9名の教員が担当し、タイ、インドネシア、ベトナム、中国の4つのパートに分かれ、各国3回ずつ授業が行われます。各国のパートでは、理系の教員によるケース・メソッド方式の授業を通じて、アジアの社会が抱える様々な問題を考察した後、文系の教員がその背景を、歴史的・社会的な事情から解き明かしていきます。

初回講義では、約200名の学生が参集する中、古田元夫教授(総合文化研究科、本科目責任教員)によるガイダンス、羽田正教授(東洋文化研究所)による「日本・アジア学とは何か?」の講義、そして、堀井秀之教授(工学系研究科)によるケース・メソッド方式に関する説明が行われました。

受講にあたっては、事前に予習が義務付けられ、プレゼンテーションとディスカッションを通じた積極的な授業参加が求められるなど、大学1、2年生には少々ハードな授業かもしれません。しかし、受講生にとっては知的好奇心が尽きないようで、毎回熱心に予習をこなし、積極的に授業に参加しています。アジアに存在する様々な問題について、自らが主体となって学び、考えることは、進路選択そして将来、社会人として活躍していく中で、貴重な糧となることでしょう。ASNETはその学際的ネットワークを活用して、今後も大学院教育のみならず、学部教育にも力を入れていきます。(文・写真:安田佳代)



初回講義(2012年4月9日)の様子

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

～救援・復興支援室より～

No.13

■救援・復興支援室の活動(5月～7月)

- ▶5月 9日・・・平成24年度ゴールデンウィークボランティア隊の活動報告をウェブサイトに掲載
- ▶5月11日・・・研究科・研究所の救援支援活動—復興支援プロジェクトが掲載された広報誌記事等4件をウェブサイトに掲載
- ▶5月21日・・・第13回救援・復興支援室会議
- ▶5月26日～7月8日・・・学習支援ボランティアの活動
活動場所:岩手県陸前高田市
活動期間:5月26・27日/6月9・10日/6月23・24日/7月7・8日
- ▶6月16日～7月22日・・・学習支援ボランティアの活動
活動場所:福島県相馬市
活動期間:6月16・17日/6月30日・7月1日/7月7・8日/7月21・22日
- ▶6月21日・・・平成24年夏季「ボランティア隊」参加者募集開始
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_03_bosyu_24summervolunteertai_j.html

■プロジェクト登録研究 85件(2012年3月21日現在)

⇒「再生のアカデミズム《実践編》」連載中。P21参照

■救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html

■救援・復興支援室

Email: kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 内線:21750

第4話 分室

遠野ものがたり

リニューアルオープンしました!

遠野分室のある遠野市役所西館が、4月14日(土)に「元気わらすっこセンター」として開所しました。「わらす・わらすっこ」とは、東北地方の方言で「子供」の意味で、1Fは子育て総合支援課と保育協会、2Fは教育委員会が入り、各種申請・相談窓口も一本化された子育てと教育活動の総合拠点となりました。

遠野市では、少子化対策・子育て支援計画を「遠野わらすっこプラン」にまとめ、条例や基金を制定して遠野の宝・希望である「わらすっこ」を市全体で支援しています。

以前は、遠野市沿岸被災地後方支援室や各自治体の後方支援事務所等があり、震災対応・復興支援活動の情報等が飛び交う「殺伐」とした雰囲気でしたが、現在はわらすっこ達の楽しそうな声が聞こえる憩いの空間に一変。こんな所にも、復興元年の一面を垣間見れた気がします。

遠野分室は何処に??「3F」に移転しました。

どんどはれ・・・

文:赤崎公一



玄関前
(看板に遠野分室)



3F移転後の遠野分室



館内案内版
(3Fに遠野分室)



1Fの様子

執筆者紹介: 救援・復興支援室遠野分室勤務(総合企画部企画課係長)赤崎公一氏。東日本大震災にて実家(岩手県大槌町)が津波で全壊し、家屋・家財すべて流失。昨年7月より、妻と子(当時1歳)とマンションのローンを東京に残し、岩手県遠野市に移住。現在は、被災した母(65歳)と高校卒業以来の同居生活中。
連絡先: tohno-kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp